

An illustration of a woman's back and shoulder, rendered in a soft, painterly style. The skin is a warm, light brown color with subtle shading to indicate depth and texture. The woman's right arm is raised, with her hand resting on her shoulder. The background is a plain, light gray. Overlaid on the illustration is the Japanese text 'リアル催眠再現音声' and '性感帯移動編' in a stylized, outlined font.

リアル催眠再現音声  
性感帯移動編

2

催眠導入から  
性感帯移動へ

「それでは、  
腕を自然に垂らして  
ください」

自然に、と言いつつ、  
彼女の手は座っている脚の  
太ももの辺りに置いてもらいます。

「では、改めて催眠に入りましょう。

はい、スーッと眠って」

顔の前に手をかざし、一点凝視法で  
スッと眠りに入ってもらいました。

眠った彼女の手を  
股間の上に置くように導きます。  
そうしておいてから、  
耳元で暗示を語り掛けます。

「これから三つ数えると、いま  
手のひらがふれているあなたの股間で、  
クリトリスがだんだん移動し始めます」



(半開きの唇)

「ん……………」

「手のひらから手首、その先へと、  
だんだん上に移っていきますよ。  
そして腕のふれられた部分が  
クリトリスになって、そこを  
さわられるだけですごく  
感じるようになってしまいます」

(半開きの唇)

「んん……………」

「それではいきますよ。  
ひとつ、ふた一つ……」

三つ数えてから、  
追い込み暗示を掛けます。

「はい、それではまず、  
性感帯をあなたの指に  
移動させましょうね。」

(女の子の指先)

ピクッ

「指先が股間のクリトリスに  
ふれていることを  
意識しながら、  
ゆっくり服の上からさわって  
ください」



(指先)

さわさわ……さわさわ……

「そう、スカートの上からでも  
わかりますよね。

クリが大きく感じやすく  
なっていて、その気持ち良さがどんどん  
指先に移っています。

そう、どんどんと指先へ……」

(赤ら顔)

「はう……」

Tさんの指がスカートの上で  
動いています。目を閉じたまま、  
少し眉をしかめている彼女の鼻息が、  
少しずつ荒くなってきました。  
明らかに感じ始めています。

「はい、その快感は股間を離れて、  
指先から手のひらに移動しました。  
これからどんどん上に昇っていきます  
よ。今度は手首にじわじわと  
移っていきます……」

だらりとしている彼女の腕をとり、  
移動ルート、つまり手首から肘までの肌  
を、スーッスーッと何度も  
撫であげました。  
ここを伝って性感帯が移動して  
いるんだよ、と  
わからせるためです。

(赤ら顔)

「はああ……………」

撫でるたびに彼女の鼻息は  
ますます荒くなり、  
軽い喘ぎも聞こえてきます。



「はい、完全にクリトリスはここに移動しました。ちょっと試してみましようか」

(指先で)

ちよん

(感じている顔)

「あん」

「はい、  
移動完了してますね。  
こここの腕で気持ち良く  
なりたいですか？」

(半開きの唇でコクコク)

「なりたい、です……」

そのあと何度か腕をこすると、  
その感触がたまらなかつたようです。

(絶叫)

「あ、だめ、いっちゃん」

(擦り続ける)



(絶叫)

「だめえええイクうう」

……イってくれました。

腕を撫でられて絶頂する体験は、  
彼女にとっても  
初めてだったと思います。